

# 令和5年度 事業計画

公益財団法人 日本股関節研究振興財団

## I 基本方針 — いつまでも元気で歩くために —

公益財団法人 日本股関節研究振興財団は、昭和62年の設立以来、股関節に関する研究、診断治療技術の開発及び運動器の健康寿命を延伸するための研究を奨励して参りました。

令和4年度の活動を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の波の影響を受けながらも、財団の基盤である研究助成金支給事業や小児股関節疾患の普及啓発に取り組むための土台作りは、着実に推進して参りました。

財団は本年で創立36年を迎え、財団の原点に立ち返り、股関節に関する研究を奨励し、股関節及び運動器の普及啓発の促進及び運動器の健康寿命延伸の活動を進めて参ります。

さて、日本国内に目を向けますと、より一段と少子高齢化が進み、股関節に悩める人がますます増加している状況にあります。

財団が創立の目的としている股関節疾患には、発育性股関節臼蓋形成不全、変形性股関節症、ペルテス病、大腿骨近位部骨折、股関節の脱臼骨折などの治療法は進歩しつつもいずれも簡単に治癒できないような疾病に変わりはありません。

本年も当財団は、研究助成、研修助成事業を通じて、診断治療技術の進展に貢献して参ります。

一方で人生100年時代を迎えて、財団のスローガンである「いつまでも元気で歩くために」は、特に人間の歩行に重大な機能を担っている股関節をケアしていくことであり、重要なことです。

厚生労働省が日本人の平均寿命を発表しましたが、男女ともに新型コロナ

ウィルス感染症による死亡者が増加した影響を受けて、10年ぶりに前年を下回りました。

また、平均寿命と健康寿命の差を縮めるべく、健康寿命の延伸をするために「健康日本 21」、「健康寿命を延ばそう～スマート・ライフ・プロジェクト」等官民を挙げて取り組んでおりますが、当財団が果たすべき役割も、さらに増しているものと考えております。

当財団は、創立の原点である股関節障害の不安を取り除くための「股関節の学術研究の奨励と普及啓発」、「ストップ・ザ・ロコモティブシンドローム」、「フレイルの予防」及び「運動器健康寿命延伸」のための活動に積極的に取り組み、社会貢献を果たして参ります。

## Ⅱ 個別事業

### 1. 助成事業（公1）

#### （1）助成金支給事業

##### ① 研究助成事業

股関節疾患及び股関節に関する他の疾患の学術研究、診断と治療技術の開発及び民間の医療機関、人工関節センター等における股関節疾患等に関する画期的な臨床研究並びに健康寿命を延伸するための研究に関する優秀な研究に対して、公募により助成を行います。なお、応募要項については、令和4年度と同様に国公立・私立大学の医療機関と、民間の医療機関の研究課題を明確化して募集いたします。

- ア 助成金額 1 件 70 万円以内
- イ 助成件数 3 件以内
- ウ 選考方法 理事会で選出された学術経験者による助成選考委員会にて内定します。

## ② 研修助成事業

### ア 海外研修助成事業

令和 5 年度は、海外の新型コロナウイルス感染症の状況を見極めて実施の可否を検討します。

- (ア) 助成金額 1 件 35 万円以内
- (イ) 助成件数 3 件程度
- (ウ) 選考方法 理事会で選出された学識経験者による海外研修助成選考委員会にて内定します。

### イ 国内研修助成事業

第 6 回目となります国内研修助成事業は、股関節医療の発展に貢献できる人材を育成するため、国内の研究機関において国内研修を実施することとし、トップレベルの研究者から専門知識を習得するための研修に対して、公募により助成を行います。

- (ア) 助成金額 1 件 15 万円以内
- (イ) 助成件数 4 件程度
- (ウ) 選考方法 理事会で選出された学識経験者による国内研修助成選考委員会にて内定します。

## (2) 研究・研修成果報告書作成事業

研究及び研修助成金の成果報告書を作成し、厚生労働省、各大学医学部及び関係機関に配布します。

本年は、令和3年度に当財団が交付した研究助成金により、令和3年から令和4年に実施された4件の研究成果を取りまとめます。

また、当財団が交付した研修助成金により、令和2年度海外研修及び令和4年度国内研修の結果報告2件の研修成果を取りまとめます。

### ① 研究成果報告書

ア 「関節運動による、滑膜を介した関節恒常性維持機構の解明」

東京大学 石倉 久年

イ 「人工股関節全置換術の長期耐性を可能とする補助療法開発のための分子生物学的研究」

北海道大学 清水 智弘

ウ 「新たな骨格筋電気刺激法が人工股関節置換術後の長期にわたる下肢機能の改善に有用か」

藤沢病院 石井 紀夫

エ 「人工股関節置換術後の歩行解析とAIを用いた新たなテーラーメイドリハビリテーション医療の創出」

名古屋市立大学 宇佐美 琢也

### ② 海外研修結果報告書（実施の場合）

（研修者）

名古屋市立大学リハビリテーション医学分野 黒柳 元

千葉大学大学院整形外科 中村 順一

金沢大学附属病院整形外科 吉谷 純哉

(研修先)

未定

### ③ 国内研修結果報告書

(研修者)

ア 東京都健康長寿医療センター 整形外科 金子泰三

仙台赤十字病院 整形外科 栗島宏明

イ 北海道大学 医学院 整形外科教室 横田隼一

大阪医科薬科大学 整形外科学教室 若間仁司

(研修先)

ア 佐賀大学、京都府立医科大学、大阪医科薬科大学、  
京セラ株式会社野洲工場

イ 東京医科大学、東京慈恵会医科大学、船橋整形外科病院、  
帝人ナカシマメディカル株式会社岡山工場

### (3) 股関節研究セミナー開催事業

医療関係者等に対して股関節疾患に関する治療方法等の研究成果  
並びに海外及び国内研修結果報告のセミナーを10月に開催予定です。

#### ① 研究助成事業

本年は、令和2年度の研究助成金による研究について、下記の3

件の研究成果を発表する予定です。

(7) 「全自動リアルタイム PCR および次世代シーケンサーを用いた人工股関節周囲感染の診断と病態の解明」

横浜市立大学 崔賢民

(イ) 「健康寿命を延ばす純国産人工股関節の研究開発」

千葉大学 中村順一

(ウ) 「骨髄機能に着目した大腿骨近位部骨折の予防戦略」

東北大学 荒井誠

② 海外研修助成事業（実施の場合）

本年は、令和2年度から令和5年度へ延期した海外研修について、結果報告を発表する予定です。

（研修者）

名古屋市立大学 黒柳元

千葉大学 中村順一

金沢大学 吉谷純哉

（研修先）

未定

③ 国内研修助成事業

本年は、令和4年度に実施された国内研修について、結果報告を発表する予定です。

(研修者)

- ア 東京都健康長寿医療センター 金子泰三  
仙台赤十字病院 栗島宏明
- イ 北海道大学 横田隼一  
大阪医科薬科大学 若間仁司

(研修先)

- ア 佐賀大学、京都府立医科大学、大阪医科薬科大学、  
京セラ株式会社野洲工場
- イ 東京医科大学、東京慈恵会医科大学、船橋整形外科病院、  
帝人ナカシマメディカル株式会社岡山工場

## 2. 普及啓発事業（公2）

### （1）股関節市民フォーラム開催事業

一般市民の方々を対象に、股関節の病態、予防等についての正しい知識をわかりやすく、役立つ講演を中心に股関節市民フォーラムを新型コロナの感染状況を見極めて対面またはWEB等で開催することとします。

### （2）普及啓発事業

本年度も、「人工関節ステッカー」を作成・配布して、広く一般国民の方々向けに股関節に関する情報提供を行い、普及啓発を図ります。

また、小児股関節疾患の早期発見等について情報提供を行うと

ともに、本格的に普及啓発の取組みを展開します。

(3) インターネット情報提供事業

本年度も引き続き、ウェブサイトの内容を充実し、より見やすく、タイムリーに新しい情報を公開します。

3. 運動器健康寿命延伸事業（公3）

(1) 運動器健康寿命延伸体操の研究開発及び普及促進事業

健康寿命延伸のための股関節を中心とする「運動器健康寿命延伸体操（ロコモン体操）」の研究開発をすすめ、外部機関が開催する講演会等へ出演し、「ロコモン体操」の普及を促進します。

(2) 体操指導者研修事業

運動器の健康寿命延伸のため、広く一般国民に運動器、特に股関節の重要性を周知する、正しい知識を持った専門家の養成研修を新型コロナの感染状況を見極め、実施する予定です。



#### 4. 管理事業

令和4年度は、新型コロナ感染予防のため会議はWEB開催にて行いましたが、本年も引き続き感染状況を見極めて対面またはWEBで開催します。

##### (1) 理事会

日 程	開催場所
令和5年5月	横浜市またはWEB
令和6年2月	京都市またはWEB

##### (2) 評議員会

日 程	開催場所
令和5年6月	東京都またはWEB

##### (3) 監事監査

日 程	開催場所
令和5年4月	東京都（財団会議室）

#### 5. 収入向上のための取組み

令和5年度においても、キャンペーンや人工関節ステッカーの配布を通じて、寄附等の案内やサポート会員への入会案内等に取り組む、収入の維持・向上に努めることとします。